

❶ 三千院門跡 京都市左京区大原来迎院町540

客殿の池泉觀賞式庭園「聚碧園」は、茶人・金森宗和が修築したと伝わる。山際の地形をいかして上下二段式になっている東側とは対照的に、南側には円形とひょうたん形の池が広がり、名前の通り青々とした木々が彩る。

❷ 実相院門跡 京都市左京区岩倉上蔵町121

大玄関の杉戸絵「竹に虎」「松に藤」は狩野派絵師によって描かれたもの。同院門主義尊の母・三位の局は後陽成天皇の側室で後水尾天皇と東福門院が岩倉に行啓した。後水尾天皇の宸翰「忍」などゆかりの寺宝も多い（通常非公開）。

❸ 総本山妙満寺 京都市左京区岩倉幡枝町91

俳諧の祖と仰がれる松永貞徳が枯山水庭園「雪の庭」を造営。妙満寺塔頭・成就院の住職が貞徳の門下だったことから寛永6(1629)年11月に俳諧興行「雪の会」が開かれ、「俳諧発祥の地」といわれる。

❹ 光悦寺 京都市北区鷹峯光悦町29

「寛永の三筆」の一人・本阿弥光悦は、徳川家康から鷹峯を拝領し一帯に芸術村を築いた。光悦の死後、屋敷跡に建立された寺院で、「光悦垣」と呼ばれる菱形に組まれた風流な竹垣を見ることができ

❺ 曼殊院門跡 京都市左京区一乗寺竹ノ内町42

後水尾天皇の従兄弟にあたる良尚法親王が、現在の地に堂宇を移し造営。大書院「十雪の間」、小書院「黄昏の間」などに狩野探幽筆と伝わる障壁画がある。二代池坊専好が皇室や公家に飾られていた立花を記録した「立花図」(重要文化財)を所蔵。

❻ 詩仙堂丈山寺 京都市左京区一乗寺門口町27

武將で文人の石川丈山が寛永18(1641)年に造営した山荘跡で、現在は曹洞宗寺院。丈山と儒学者・林羅山が漢晋唐宋時代の中国の詩人36人を選んで「三十六詩仙」とし、狩野探幽に肖像画を描かせた額が並ぶ「詩仙の間」が名称の由来。

❼ 真珠庵 京都市北区紫野大徳寺町52

「庭玉軒」(重要文化財)は茶人・金森宗和好みの茶室。内露地に蹲踞を設置。外露地にはにじり口に向かって丸い飛石を配置し、美しさだけではなく、歩くとき滑らないよう集中力を高めて茶室に入る厳かな雰囲気演出しているとされる。通常非公開。

❽ 大本山 大徳寺 京都市北区紫野大徳寺町53

大徳寺の百五十六世・江月宗玩は、絵師の狩野探幽と交流があり、寛永12(1635)年に探幽斎の雅号を与えた。法堂(重要文化財)の天井画「雲龍図」は、探幽が35歳の頃(1637年頃)の作。方丈の東庭は小堀遠州の作庭と伝わる。

❾ 聚光院 京都市北区紫野大徳寺町58

千利休が笑巖宗祈和尚について禅の修行を行ったとされる千家の菩提寺。利休の系譜を引く茶道三千家(表千家・裏千家・武者小路千家)歴代の墓がある。「閑隠庵」(重要文化財)は、にじり口上の連子窓と床の間の墨蹟窓のみで、利休好みの簡素な茶室。

❿ 孤蓬庵 京都市北区紫野大徳寺町66

茶室「忘筌席」(重要文化財)のにじり口が明り障子で、光が差し込むのが特徴。二重の刈込で水平線を表現し、かつては船岡山を一艘の舟と見立てた借景庭園や、武士・茶人の小堀遠州の故郷を表した「近江八景の庭」がある。すべて遠州作(通常非公開)。

⓫ 鹿苑寺(金閣寺) 京都市北区金閣寺町1

数奇屋造りの茶室「夕佳亭」は、住持・鳳林承章が、茶人・金森宗和に造らせたもの。後水尾天皇献茶の聖跡。現在の建物は明治期の再建であるが、古の姿を残している。床の間にある南天の床柱や萩の違ひ棚が特徴的。

⓬ 天寧寺 京都市北区天寧寺門前町301

陶工・野々村仁清が手がけた「錆絵水仙文茶碗」(重要文化財、現在は京都国立博物館に寄託)は、茶人・金森宗和が天寧寺におさめた茶道具のうちの一つ。水仙が一輪描かれた宗和好きな作品。敷地内に宗和の墓がある。

⓭ 御霊神社(上御霊神社) 京都市上京区上御霊堅町495

5月の還幸祭で巡幸する神輿は後水尾天皇が下賜した風輦を作り替えたもの。また、東福門院の小袖を手掛けた雁金屋の次男・尾形光琳が北側に住んでいた。そこで、光琳の「燕子花図」にちなみ、かつて神社の外堀に見られた燕子花に似た「一八」を近年育てている。

⓮ 本山 本法寺 京都市上京区本法寺前町617

「花唐草文螺鈿経箱」(重要文化財)など、多才な芸術家として知られる本阿弥光悦の美術作品が数多く残る。光悦作と伝わる約200坪の庭は、三箇所の築山で巴紋を表していることから「巴の庭」(国指定名勝)と呼ばれる。

⓯ 今日庵 京都市上京区本法寺前町613

裏千家を代表する茶室で、重要文化財。千家三代元伯宗旦が隠居所として正保3(1646)年に建てたが、天明の大火で焼失。その後再建された。一畳台目という極小空間で構成され、露地には宗旦手植えと伝わる銀杏の大名「宗旦銀杏」がそびえる。一般非公開。

⓰ 不審菴 京都市上京区小川通寺之内上る本法寺前町597

表千家にある三畳台目の茶室。初祖の千利休が大徳寺門前に建てた四畳半の茶室が最初である。現在の不審菴は、4代江岑宗左が父の元伯宗旦と相談して建てたものが原型となっている。「不審菴」の名は「不審花開今日春」という禪語によると伝えられる。一般非公開。

⓱ 妙護国院 三寶寺 京都市右京区鳴滝松本町32

寛永5(1628)年、後水尾天皇の内旨により右大臣・菊亭経季と中納言・今城為尚が創建。茶人・千宗旦の弟子で、茶道宗偏流の流祖である山田宗偏が若い頃、塔頭の涼池院で茶道の奥義を究め茶室「四方庵」を建てた。現在はその跡を示す石碑がある。

京都市



⓲ 北野天満宮 京都市上京区馬喰町

室町時代に途絶えていた土佐派を再興した画家・土佐光起が手掛けた「北野天神縁起絵巻(光起本)」(重要文化財)を所蔵(通常非公開)。菅原道真公の幼少期から北野天満宮に祀られるまでの逸話を描いたもの。

⓳ 旧嵯峨御所 大本山大覚寺 京都市右京区嵯峨大沢町4

後水尾天皇から下賜された宸殿を彩る鮮やかな「牡丹図」「紅梅図」や、正寝殿(通常非公開)の水墨画「山水図」など、絵師・狩野山楽筆と伝わる(いずれの建物・障壁画も重要文化財)。庭湖館前の池泉式庭園は、小堀遠州の作庭。

⓴ 近衛邸跡 京都市上京区京都御苑内

五摂家の一つ、摂政や関白を輩出した近衛家の邸宅跡で、京都御苑の北西部に位置する。公家の邸宅の中でも最大規模であったといわれる。江戸時代末に孝明天皇が歌に詠まれるなど米桜(しだれ桜)の名所で、現在でも約60本が植わっている。

⓵ 京都御所・京都仙洞御所 京都市上京区京都御苑内

立花を好んだ後水尾天皇は宮中や仙洞御所で立花会を催し、二代池坊専好が指導役として参加した。香道家・米川常白は禁裏御用達の紅葉商人で、東福門院の香道指南を務めた。京都仙洞御所の庭園は小堀遠州が作庭し、その後、後水尾上皇自身が手を加えたといわれている。

⓶ 御室窯跡(陶工仁清窯址) 京都市右京区御室堅町

御室窯は、陶工・野々村仁清が1640年代に仁和寺門前で開いた。茶人・金森宗和の指導のもと、仁清は茶碗や茶入など数多くの茶道具を製作。色絵付の技法を完成させ、「京焼の祖」ともいわれる。現在、窯のあった場所に石碑がある。

⓷ 麟祥院 京都市右京区花園妙心寺町49

徳川家光の乳母・春日局の菩提寺。御霊屋に祀られた春日局の木像は小堀遠州の作と伝わる。後水尾天皇に謁見した際の姿と推察される春日局像は絵師・狩野探幽の手による。方丈には絵師・海北友雪の「雲龍図」といった水墨画も。非公開寺院。

⓸ 大本山 妙心寺 京都市右京区花園妙心寺町1

どこから見ても目が合うことから「八方睨みの龍」といわれる、法堂(重要文化財)の天井画「雲龍図」で知られる。円相の直径は約12m、幕府の御用絵師も務めた狩野探幽が8年の歳月を費やして完成させた。

⓹ 退蔵院 京都市右京区花園妙心寺町35

海北友雪筆の四幅対の掛軸「四季山水人物図」を所蔵。賛に「読書之楽」とあり、季節とともに読書を楽しむことを詠んだ叙景的詩が記されている。方丈には、狩野了慶作の「鶏訪戴図」「西湖図」などの襖絵(いずれも通常非公開)がある。

⓺ 靈鑑寺門跡 京都市左京区鹿ヶ谷御所ノ段町12

後水尾天皇の皇女・多利宮が創建した尼門跡寺院。絵師・狩野探幽作の掛軸「山水図」(通常非公開)を所蔵している。後水尾天皇が椿を好んだことから庭園には多様な椿が植えられ、「日光(じっこう)椿」は京都市の指定天然記念物。

⓻ くろ谷 金戒光明寺 京都市左京区黒谷町121

「香道中興の祖」と呼ばれる米川常白の墓所がある。常白は、東福門院に香を指南したと伝わる。墓石には戒名「東菴常白居士」が刻まれており、毎年7月中旬には墓前で「常白忌」が行われている。

⓼ 元離宮二条城 京都市中京区二条通堀川西入二条城町541

寛永行幸を前に改修され二の丸御殿(国宝)が現在の姿に。改修にあたった作事奉行の一人が小堀遠州。大広間のダイナミックな松は狩野探幽、黒書院の優美な四季の景色は探幽の弟・尚信の筆と、狩野派が総力を挙げて仕上げた障壁画のうち1016点が重要文化財。

⓽ 大本山 南禅寺 京都市左京区南禅寺福地町

寛永5(1628)年、藤堂高虎が大坂夏の陣で犠牲になった家臣の弔いのため、三門を再建。天井には、狩野探幽と土佐徳悦によって鳳凰や飛天像、人頭鳥身などが極彩色で描かれている。方丈庭園は小堀遠州作と伝わる。

⓿ 金地院 京都市左京区南禅寺福地町86-12

東照宮(重要文化財)の天井の鳴き龍は狩野探幽筆、三十六歌仙の額は土佐光起筆。かつて窓が8つあったことから「八窓席」と呼ばれた茶室(重要文化財)や、鶴島と亀島が向かい合う「鶴亀の庭」(特別名勝)は小堀遠州作と伝わる。

⓰ 総本山 誓願寺 京都市中京区新京極通三条下ル桜之町453

五十五世法主である安楽庵策伝上人は、小堀遠州や松花堂昭乗、松永貞徳らと親交がある茶人・文化人であった。京都所司代板倉重宗の依頼で落語の原型となる滑稽噺を集めた「醒睡笑」を著したことから、「落語の祖」といわれる。

⓱ 頂法寺(六角堂) 京都市中京区堂之前町248

後水尾天皇は立花を大成した三十二世池坊専好(二代専好)を重用し、しばしば宮中で立花会を催した。頂法寺に隣接するいけばな資料館では二代専好が寛永5(1628)年以降に宮中や仙洞御所で立てた作品の記録図「立花之次第九拾三瓶有」(重要文化財)を展示。

⓲ 高台寺 京都市東山区高台寺下河原町526

寛永元(1624)年、建仁寺の三江紹益を中興の祖に迎え、臨済宗の高台寺となる。ねねの甥で木下長嘯子(木下勝俊)愛用の「静形薙刀」「巴形薙刀」が伝わる。「高台寺掌美術館」にて不定期公開。

⓳ 圓徳院(歌仙堂) 京都市東山区下河原町530

高台寺の塔頭寺院で、北政所・ねね、終焉の地。北庭は伏見城の庭を移した。賢庭が作庭、武士・茶人の小堀遠州が手を加えた。歌仙堂には、ねねの甥(兄・木下家定の子)で、「歌聖」と呼ばれた歌人・木下長嘯子(勝俊)が祀られている。

⓴ 春光院(春光禅院) 京都市東山区下河原町531

高台寺開創とともに三江紹益を開山として建立した塔頭寺院。高台院(ねね)、ねねの甥である木下勝俊(木下長嘯子)とその娘(春光院)を祀る。長嘯子は歌人として活躍し、後水尾天皇が勅撰したと伝わる集外三十六歌仙にも名を連ねている。通常非公開寺院。

⓵ 大本山 建仁寺 京都市東山区小松町584

幕府御用儒学者の林羅山が十代の頃、仏教を学んだ記録が残る。国宝の「風神雷神図屏風」(現在は京都国立博物館に寄託。建仁寺では高精細複製作品を展示)は、俵屋宗達の晩年の作。

⓶ 花咲稲荷神社 京都市下京区稻荷町543

俳人・歌人として活躍した松永貞徳の邸宅跡で、邸内にあった鎮守社が現在も残っている。貞徳は、俳諧を庶民に教え、普及させた功績から「俳諧の祖」と呼ばれる。社名は貞徳の号である花咲亭道邇軒にちなんでいる。

⓷ 西本願寺 京都市下京区堀川通花屋町下ル本願寺門前町

寛永13(1636)年に上棟した御影堂(国宝)は、現存する江戸期の建築物では最大級の規模。書院内の対面所「鴻の間」(国宝・非公開)は、寛永年間造の遺立。黒書院(国宝・非公開)の一の間と二の間、茶室の水墨画は狩野探幽筆。

⓸ 涉成園(枳殻邸) 京都市下京区下珠数屋町通間之町東入東玉水町

東本願寺の飛地境内地で、国指定名勝の庭園。寛永18(1641)年、東本願寺の十三代・宣如上人が徳川家光から土地の寄進を受け、承応2(1653)年に整備。池泉回遊式庭園で、武將・文人であった石川丈山の作庭と伝わる。

⓹ 養源院 京都市東山区三十三間堂廻り町656

杉戸絵「白象図」「唐獅子図」「波と麒麟図」(いずれも重要文化財)など、俵屋宗達の障壁画が残る。「寛永の三筆」の一人・松花堂昭乗が描いた杉戸絵「柏鷹図」「張果老図」(ともに通常非公開)も所蔵。

裏面に続く▶